

初めてでも楽しめる解説・字幕付き！

文楽

人形浄瑠璃

BUNRAKU

【昼の部】

よし つね せん ほん ざくら
義経千本桜
みちゆきはつねのたび
道行初音旅
しん ばん うた ざい もん
新版歌祭文
の ざきむら
野崎村の段

【夜の部】

近松門左衛門没後300年
近松門左衛門=作 野澤松之輔=脚色・作曲
そ ね ざき しん じゅう
曾根崎心中
いくたま しゃぜん
生玉社前の段
てん ま や
天満屋の段
澤村龍之介=振付
てん じん の もり
天神森の段

写真：青木信二

令和7年11月20日(木)

【昼の部】13:30 (終演予定 15:45)

【夜の部】18:30 (終演予定 20:30)

※開場は各回45分前

会場

アマノ芸術創造センター名古屋

- 地下鉄東山線「新栄町」下車1番出口を北へ徒歩3分
- 地下鉄桜通線「高岳」下車3番出口を東へ徒歩5分

チケット
発売

【友の会会員先行発売】…… 8月20日(水) 9:00～

下記チケット取扱の①②での販売のみ。ただし①では8月20日(水)は電話予約のみでの受付となります。

【一般発売】…… 8月27日(水) 9:00～

下記チケット取扱の④では10:00～です。

チケット
取扱

① 名古屋市文化振興事業団チケットガイド

TEL 052-249-9387 (平日9:00～17:00 郵送可)

② アマノ芸術創造センター名古屋、青少年文化センター、市内文化小劇場等、事業団が管理する文化施設窓口 (土日祝日も営業) ※工事休館等がありますので、ウェブサイトでご確認ください。

※友の会会員、障がい者等、大学生(25歳)以下の方は購入時に会員証、障がい者手帳等、学生証をご提示ください。障がい者の方は、ご本人と付き添い1人まで割引価格でお求めいただけます。※他の割引との併用はできません。 ※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※当日券は完売の場合を除き、開場時刻の15分前から販売します。

③ 電子チケット

※割引料金の場合は、事業団友の会会員証、障がい者手帳等、学生証を当日ご提示いただきます。



④ 名鉄ホールチケットセンター (一般のみ取り扱い)

TEL 052-561-7755 (平日10:00～18:00)

料金
【全指定席】

一 般

一階席 4,800円 二階席 3,000円

友の会会員・障がい者等・大学生(25歳)以下

一階席 4,300円 二階席 2,500円

<主催> 公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 / 公益財団法人 文楽協会

<助成> 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 / 朝日新聞文化財団

電光掲示板による字幕付きですので、初めて鑑賞する方でも楽しみいただけます。※席によっては字幕が見えにくい場所もございますので、あらかじめご了承ください。

昼の部

解説（あらすじを中心に）

義経千本桜

道行初音旅

静御前 豊竹呂勢太夫
忠信 竹本碩太夫
ツレ 鶴澤清 鶴澤清 公旭治

豊竹薫太夫

（人形役制）
静御前 吉田一
忠信 吉田玉
助輔

新版歌祭文

野崎村の段

中 豊竹巨太夫 鶴澤寛太郎
前 豊竹呂勢太夫 鶴澤藤蔵
切 豊竹若太夫 鶴澤清 方介
ツレ 鶴澤清 方介

（人形役制）
娘おみつ 豊松清十
久三の小助 吉田文蔵
親久松 吉田玉次
娘およし 吉田勘次
駕籠屋 吉田勘次
駕籠屋 吉田勘次
油屋お頭 吉田勘次
船屋お頭 吉田勘次
囃子 望月太明蔵社中

義経千本桜

道行初音旅

浄瑠璃三大傑作のひとつで、人形浄瑠璃の全盛期、延享4年（1747）に大坂の竹本座で初演された二代竹田出雲、三好松洛、並木千柳合作の五段の時代物。四段目の、満開の桜を背景にした道行は、道行の最高傑作とされ、目も耳も圧倒される極めて華麗な舞台です。

平家滅亡後、兄源頼朝に追われる義経が吉野にいと知った愛妾静御前は、義経の忠臣佐藤忠信に伴われ、吉野へ。道中、義経から与えられた鼓を静が打つと、必ずどこからともなく姿を現わす忠信。その正体は狐……

忠信がどう登場するか、また静から忠信への豪快な扇の投げ渡し、見どころです。

新版歌祭文

野崎村の段

歌祭文によって世間に広まった、大坂の油屋の娘お染と丁稚久松の心中（1710）。この事件から生まれた多くの作品中、最も有名で人気のある、近松半二の二巻の世話物で、安永9年（1780）、竹本座初演。大阪府大東市

を舞台とする上の巻の「野崎村」には、それまでのお染久松物にはなかった新たな悲恋がみごとに描かれています。野崎村の百姓久作が縁あって育てた久松は、久作の妻の連れ子おみつの許婚（いいなすけ）でありながら、奉公先の娘お染と恋仲。決して許されない主従の恋を危ぶんだ久作は、久松が実家へ戻されたのを幸い、すぐにおみつと結婚させることに。諦めかけていた祝言が、突如、現実のものとなり、おみつは大喜び。

一方、この恋が叶わぬときには死ぬ覚悟で、久松のあとを追って来たお染。久松も心中を決意。けれども、人の道に背くこの恋を諦めるよう、久作に諭され、心ならずも別れを約束しました。二人を死なせたくない、おみつを幸せにしてやりたい、その願いが叶ったと久作が喜んだのも束の間、花嫁姿のおみつは、実はすでに髪を切り、俗世を捨てた尼に。二人の本心は心中と見抜き、命を助けるため二人を添わせようと、自身の幸せを諦めたのでした。

悲しみから一転、段切は名曲として知られる旋律を三味線が連れ弾きで華やかに奏で、人形が笑いを誘います。



夜の部

解説（あらすじを中心に）

近松門左衛門没後三百年
野澤松之輔 脚色・作曲

曾根崎心中

生玉社前の段

豊竹希太夫 鶴澤清 旭夫

天満屋の段

竹本鑑太夫 竹澤宗助

天神森の段

澤村龍之介 振付
お初 豊竹芳穂太夫
徳兵衛 竹本小住太夫
鶴澤清 鶴澤友之助
鶴澤藤之亮

竹本碩太夫

（人形役制）
手代徳兵衛 吉田玉次
丁稚長蔵 吉田勘十
天満屋お初 吉田勘十
油屋九平次 吉田勘十
遊舎客 吉田勘十
遊女 吉田勘十
天満屋お玉 吉田勘十
女中お玉 吉田勘十
見物人 大ぜい

曾根崎心中

生玉社前の段・天神森の段

元禄16年（1703）、露天神社（つゆのてんじんじや）（大阪市北区）で起きた心中事件を題材として、その二月後に竹本座で初演され、大好評を博した近松門左衛門の世話物第一作。それまで歴史や伝説といった過去の物語のみを題材として来た浄瑠璃に、同時代の身近な事柄を描く新分野「世話物」を確立した、画期的な作品です。現在上演されているのは、1955年に、野澤松之輔の脚色・作曲により大阪の四ツ橋文楽座で復活上演されたもので、原作のままではありませんが、海外での評価も高く、文楽を代表する演目となっています。

醬油屋の手代徳兵衛は、天満屋の遊女お初との愛を貫くため、主人からもちかけられた縁談を断固として拒絶。激怒した主人に命じられたのは、継母が知らぬ間に話を決めて受け取っていた持参金を返すこと、そして、大坂追放でした。お初に会えなくなる危機。継母から取り戻した金を早く返して、主人の気持ちとを和らげたい……

ところが、その大切な金を友人の九平次にだましとられたうえ、衆人環視の中、証文偽造の罪を着せられ、打ちのめされるはめに。金も面目も失い、もはや生きてはいられなくなりました。

その夕方、天満屋では、早くも徳兵衛の噂でもちきり。お初は、店の外で死の覚悟を告げる徳兵衛を襦袢（うちかけ）の裾に隠し、ひそかに店の縁の下に忍び込ませます。九平次の中傷に怒りで身を震わせる徳兵衛。一緒に死ぬとの言葉とともに足で返事を促すお初。徳兵衛はその足を押し戴いて涙。このように、誰にも気づかれず、足で心を確かめあつた二人は、深夜、店を抜け出し、曾根崎の天神の森で心中しました。

縁の下と女性の足を見せる演出が独特の「天満屋」。「この世の名残、夜も名残……」名文と讃えられた「天神森」の道行。哀しくも美しい心中場面。二人の心情がまっすぐに伝わって来る舞台です。



※出演者の急病や、やむを得ない事情により、代役もしくは演目を変更して上演する場合があります。 ※開演中の写真撮影・録画録音ならびに携帯電話・スマートフォン等の使用は固くお断りいたします。

中止あるいは内容を変更する場合がありますので、お出かけ前に必ずウェブサイトやお電話にてご確認ください。

事業団ウェブサイト
「重要なお知らせ」



チケットガイド
TEL 052-249-9387
(平日9:00～17:00)